

横浜市立鴨志田第一小学校 学校評価報告書 (平成25年度～平成27年度)

共通取組 重点取組	平成25年度		
	具体的取組	自己評価結果	総括
1 確かな 学力	○子どもの思いや願いを的確につかみ、一人ひとりの課題に応じた学習活動を展開します。 ○子どもと一緒に学びの道筋を考えながら学習活動を展開し、自ら学び自ら考える力を育てます。	○身に付けさせたい力を明確にし、子ども一人ひとりが自分のゴールを意識し、学びの進め方を考えながら学習する授業改善を行った。このことにより、学状の意識調査などにも、学ぶ意欲が高まりが見られた。	(A) (B) (C) (D)
2 豊かな 心	○道徳の時間はもとより特別活動を中心としながら、いろいろな人とかわることを通して豊かな心を育みます。	○縦割り班活動、児童会活動、異学年交流などの豊かな交流を通して人のために活動することを喜びとする豊かな心を育んだ。しかし、実践的な態度に課題を抱える児童が少なかった。	(A) (B) (C) (D)
3 健やかな 体	○一校一実践運動の継続的な縄跳び運動への取り組みにより体力の向上を図ります。	○月1回の縄跳び朝会や月2回の低・高学年ブロック縄跳び集会等により、縄跳びの技量の向上を励みながら体力向上を図った。全児童への日常化へは少し課題が残った。	(A) (B) (C) (D)
4 教育課程 学習指導	○言語活動の充実を図り、子どもが自分の思いや考えを進んで表現できる力を育てます。 ○実験や観察、実技、操作などの活動を伴った授業展開を多く取り入れます。	○国語を重点研究として取り組んだので、言語活動が少しずつ豊かになってきた。 ○理科少人数指導のおかげで実験や観察などの活動を伴った授業展開を充実することができた。	(A) (B) (C) (D)
児童・生徒 指導	○「鴨志田第一小スタンダード」を基に全教職員が一貫した生活・給食・掃除指導を行います。 ○課題を抱えた子どもなどへの支援の仕方を研修し、子ども理解の力を高めま	○全教職員が「鴨志田第一小スタンダード」を共通理解し、一貫した生活指導を行った。 ○課題を抱えている子どもへの支援は、市教委と連携を図りながら、組織的に指導にあたったが、課題解決までには至らなかった。	(A) (B) (C) (D)
保護者・ 地域住民 との連携	○校運営協議会の機能を活用し、地域・保護者・学校の意思疎通(「キャッチボール」)を図り、連携を充実します。 ○分かりやすい学校だよりづくりを通して、地域や保護者に学校の取組を周知できるようにします。	○地域・保護者・学校の代表を取り込んだ校運営協議会と連携し、授業評価などを対話型の評価で行い、意見を引き出すことができた。 ○若い教職員が中心となり、保護者・地域住民の視点を取り入れた学校だよりや校内掲示板を工夫し学校からの分かりやすい情報発信を行った。	(A) (B) (C) (D)
人材育成 組織運営	○経験年数の多い・少ないに関係なく、どの教職員にも学校運営に参画する場を多様に用意することで、キャリアステージを先取りした人材育成を行います。 ○鴨志田中学校ブロックのメンターチームとの連携を図りながら活動内容を充実させ、定期的な活動を保障し、学び合いながら自ら育つ職員の人材育成を行います。	○若い教職員に提案の機会を保障することでキャリアステージを先取りした人材育成を行った。 ○鴨中ブロックのメンターチームを支える中心者が連携し、活動内容の充実を図り、若手職員を育成した。	(A) (B) (C) (D)
小中一貫 教育推進 ブロック内 相互評価 結果	○中学の合唱コンクールへの6年生の参加、小中合同の地域防災訓練や地域清掃活動、6年生の部活動体験、音楽の授業での異校種交流等の活動を通して、小学生が、中学生(中学校)を身近に感じるようになった。 ○スクリーニングを利用した、新入生の情報交換、三校合同の授業研究(年3回)3校合同人権研修会、懇親会を通して一層の交流が進み、授業研究会や会議等で、遠慮なく意見を言えるようになった。		
学校関係者 評価結果	○自己評価結果は、総括評価の根拠が分かるように成果と課題を具体的な記述で記して欲しい。 ○また、具体的取組が成果としてあがっている場合は、自信をもって総括評価をAとしてよい。		
評価結果に 対する 学校の見解	○共通取組や重点取組の具体的取組の記述を評価しやすいような具体的な内容で記す。 ○自己評価結果は総括評価の根拠が分かるように成果と課題に分けて記す。		
学校経営 中期目標 達成状況	○学校が抱える様々な問題に対し、校運営協議会を中心に、学校・家庭・地域が連携を図りながらよりよい学校作りを推進した。指導力向上推進校の指定を受けるなど市教育委員会と連携を図りながら、教職員の指導力の向上に努めた。充実したたわり活動を通して人と人とのかわりの中で自分の役割を果たしていく活動を重視した教育を推進した。少数ではあるが、ルールを守れない等規範意識に欠ける児童への指導には課題が残った。		

共通取組 重点取組	平成26年度		
	具体的取組	自己評価結果	総括
1 確かな 学力	○自分の考えを表現する場や意見交流の場がある授業をめざす。 ○一人ひとりが分かる授業をめざす。	○授業の中で計画的に自分の考えを表現したり、意見交流したりする場を設けることができた。 ○少人数指導や取り出し指導、グループ学習など一人ひとりの学びに応じた学習を行うことができた。	(A) (B) (C) (D)
2 豊かな 心	○保護者や地域、関係団体などに協力を求め、体験的な活動へのサポートをしてもらうことで体験活動の充実を図る。 ○縦割り活動や学年・学級活動の充実を図り、人とかわるよさを感じながら思いやりの心を育てる。	○朝のよみかせやキャリアリンクを活用した出前授業などにより体験的な活動の充実を図った。 ○めあてや役割意識をもって他学年と関わる縦割り活動などの積み重ねにより、他学年との交流は深まった。	(A) (B) (C) (D)
3 健やかな 体	○一校一実践運動である縄跳び運動への継続的な取り組みにより体力の向上を図る。	○年間を通して毎月1回の全校縄跳び朝会や低・高学年別集会の継続により、体力と縄跳びの技量の向上につながった。	(A) (B) (C) (D)
4 教育課程 学習指導	○言語活動の充実を図り、子どもが自分の思いや考えを進んで表現できる力を育てる。 ○学習カードと場の設定を考えた授業を通して、学び合い・認め合う子を育成する。	○国語で培った言語活動の力がどの教科・領域等でも生かされ、自分の考えを伝える力が育ってきた。 ○重点研究で取り組んだ体育科では、学習カードや場の設定の工夫により、学び合い・認め合う子の姿が見られた。	(A) (B) (C) (D)
児童・生徒 指導	○「鴨一スタンダード」を基に全教職員が一貫した生活・給食・掃除指導を行う。 ○子ども理解を深め、児童支援専任教諭を中核とした困り感のある子どもへの組織的な対応力を向上させる。	○年度当初に共通理解を図った「鴨一スタンダード」による指導にぶれが出てきたところがあった。 ○毎月の職員会議で子ども理解を図った。組織的な対応へは、理解の徹底を図るまでには至らず、課題が残った。	(A) (B) (C) (D)
保護者・ 地域住民 との連携	○学校運営協議会の機能を活用し、地域・保護者・学校の連携を充実させる。 ○分かりやすい学校だより等の情報発信を通して、地域や保護者に学校理解を広げる。	○地域と連携を図った地域防災訓練や学校・地域コーディネーターの活用により教育活動の充実を図った。 ○保護者や地域の方の目線に立った分かりやすく、親しみやすい学校だよりを発行した。	(A) (B) (C) (D)
人材育成 組織運営	○経験年数にこだわらず、誰でも学校運営に参画する機会を設け、キャリアステージを先取りした人材育成を行います。 ○鴨志田中学校ブロックのメンターチームと連携を図り、活動内容を充実させ、互いに学び合いながら自ら育つ職員の人材育成を図る。	○小中連携や適材適所の人材育成でメンターのキャリアアップは図れたが、ミドルリーダーの育成には課題が残った。	(A) (B) (C) (D)
小中一貫 教育推進 ブロック内 相互評価 結果	○3校合同授業研究会を各校1回ずつ、年3回行った。内容は小学校の高学年4教科(国・社・算・理)、中学校の全教科を対象とした。相互理解が深まり、小中の接続を意識した実りある研究討議となった。 ○年間を通じて、地域の行事に合同で参加し、総務会を中心とした4部会が共同して9年間の子どもの育成を考え、取り組んだ。		
学校関係者 評価結果	○子どもたちからのあいさつが昨年度と比べると少なくなってきた印象を受けるが、学校だけの責任としないで、学校・地域・保護者の大人から積極的に声をかけていき地域ぐるみでマナー向上を図っていく。		
評価結果に 対する 学校の見解	○学校・家庭・地域で連携を図りながら取り組んだ活動は、継続性を考慮して取り組む必要がある。特に、子どもたちが直接、保護者や地域の方に触れ合い、高く評価されている活動は、連携を図りながら取り組む。		
学校経営 中期目標 達成状況	○鴨志田中学校ブロック、地域防災委員会、保護者、関係機関と連携・協力を図りながら取り組んだ防災安全教育には、子どもの安心・安全の育成の点で成果があった。しかし、学校・家庭・地域と共に取り組む活動の継続の点では、課題が残った。更に連携を図りながら、よりよい学校づくりを推進していく。		

共通取組 重点取組	平成27年度		
	具体的取組	自己評価結果	総括
1 確かな 学力	○グループ活動など自分の考えを表現する場や意見交流の場を確保できる授業をめざす。	○ペア学習やグループ学習を取り入れた。ワークシートの工夫をしたりした。少人数の中ではあるが、互いに意見を聞きあいより良い考えを生み出すとする児童が育ってきた。	(A) (B) (C) (D)
2 豊かな 心	○縦割り活動や学年、学級活動の充実を図り、あいさつを通して人とかわる大切さを身に付ける。	○異学年交流では、相手のことを考えて行動しようとする児童の姿が見られた。 ○時と場に応じたあいさつを進んで行うにはまだ至っていない。	(A) (B) (C) (D)
3 健やかな 体	○一校一実践運動である縄跳び運動やマラソン週間への取組により、体力の向上を図る。	○長縄とびの取組では各学級のめあてが明確になっており進んで行うことができた。 ○短縄運動の実施時間の改善が必要である。	(A) (B) (C) (D)
4 教育課程 学習指導	○お互いのよさを知るための学習カードと場の設定を考えた授業を通して言語活動の充実を図る。	○体育科では教材の開発や学習カード・場の設定を工夫し、互いの良さを認め合い学び合える子の姿が見られた。 ○他教科においても自分の考えを伝えたり人の考えを聞くようにしたりする態度を養うことができた。	(A) (B) (C) (D)
児童・生徒 指導	○「鴨一スタンダード」を基に全教職員が一貫した生活・給食・掃除指導を行う。 ○子ども理解を深め、児童支援専任教諭を中核とした困り感のある子どもへの組織的な対応力を向上させる。	○年度当初に共通理解を図ったものの、細かな部分でのあいまいさが残った。 ○児童支援専任を中心に児童理解を進めた。共通理解の機会と資料が提示され教職員のよい研修の場となった。	(A) (B) (C) (D)
保護者・ 地域住民 との連携	○学校説明会や学校運営協議会の機能を活用し地域・保護者・学校の連携を充実させる。	○地域と連携して行った防災訓練や地域行事への参加により教育活動の理解・充実が図れた。 ○学校運営協議会内容にかんじて教職員の共有化に課題が残った。	(A) (B) (C) (D)
人材育成 組織運営	○経験年数にこだわらず、誰でも学校運営に参画する機会を設け、キャリアステージを先取りした人材育成を行います。 ○鴨志田中学校ブロックのメンターチームと連携を図り、活動内容を充実させ、互いに学び合いながら自ら育つ職員の人材育成を図る。	○校内や中学校ブロックのメンター研修でのキャリアアップはよくできた。 ○ミドルリーダーを生かした研修を行うことでさらなるキャリアアップを目指す必要がある。	(A) (B) (C) (D)
小中一貫 教育推進 ブロック内 相互評価 結果	○3校合同授業研究会や中学校教員による小学校での1年を通しての音楽授業実施などの取組を通して、小学校から中学校へのスムーズな接続ができるようになった。 ○地域防災訓練をはじめとする地域行事に小中合同で児童生徒が参加させることにより、9年間で育てる子ども像に近づけることができた。		
学校関係者 評価結果	○取組の趣旨を教職員が理解し、一丸となって取り組むことが大切である。子どもは大人の言動をよく見ており、子どもに身に付けさせたいこと(あいさつ、整理整頓など)は教職員も保護者も地域住民も率先して行うのがよい。この1年で学校はきれいになった。		
評価結果に 対する 学校の見解	○具体的取組について教職員で共通理解を図り、達成状況を確認しながら児童の育成に努めなければならない。		
学校経営 中期目標 達成状況	○どの取組も一定の成果が得られた。振り返りをする中で改善すべきところを改善しさらによりよい学校づくりをしようという思いを教職員がもつことができた。保護者・地域と連携した取組については、職員が異動によりかわっても継続していけるように方法を考え計画していかなければならない。		

※当該年度の達成状況： A…十分達成 B…概ね達成 C…努力必要 D…改善必要